再評価結果(平成16年度事業継続箇所)

担 当 課:都市・地域整備局街路課

<u>担当課長名:斉藤親</u>

事業概要 JR 阪和線の美章園~杉本町間約4.9 kmの区間では、交差する幹線道路等の踏切において深刻な渋滞や事故が発生している。JR 阪和線連続立体交差事業は、12箇所の踏切を除去することにより、渋滞や事故の解消を図るとともに、地域分断の解消や高架下利用による地域の活性化を図る目的を持っており、交通環境の改善、地域のまちづくりの観点から極めて必要性が高い事業である。

S 4 5 年度事	業化		S	5 6	年度都	『市計画決定	S 5 7	年度用地着手	<u> </u>	H 1 13	年度工事着	手
全体事業費] 	Ç	9 2 3	億円	事業進捗率]]	8 3 %	供用済	延長	 	0 km
踏切交通遮断	量	 	1 (2万	台時	/日						
費用便益	В/	C			総費	用(残事業)/(事	業全体)	総便益	(残事業)/(事	事業全体)	基準年	
分析結果	(事業全体	3)	١.	9	_	147/1,161	億円 _	2,226	6/ 2,22	26億円	平成 1	5年
					事	業 費:147	/1161億円	建行時間短縮	便益:17	794/1794億円	1	
	(残事業)	1 5	5.	1	維持	持管理費:	/ 億円	走行費用減少	使益: 4	108/408億円	1	
								交通事故減少	便益:	22/ 22億円	1	
								1				

事業の効果等

・円滑なモビリティの支援(ボトルネック踏切10箇所の除却) 地域分断の解消、都市再生等

関係する地方公共団体等の意見

沿線住民等から早期渋滞解消の要望あり

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

近年の財政状況が厳しい中、年次計画とおりの予算確保が難しくなっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成11年度に準備工事の着手、平成12年度には鉄道高架本体工事に着手しており、現在は、平成17年度の全線高架切替を目指し全工区において本体工事・軌道工事や駅舎工事などの工事を進捗させている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

阪神高速道路大阪泉北線と同時一体的な計画として決定され、工事着手に向けて用地買収を進めてきが、 平成7年1月に発生した阪神淡路大震災により地元住民要望で着工を一旦見合わせ、構造の検討及び地元調整を行った為に当初予定していたより工事着手が遅れた。現在は、平成17年度の全線高架切替を目指し全工区において本体工事・軌道工事や駅舎工事などの工事を進捗させている。

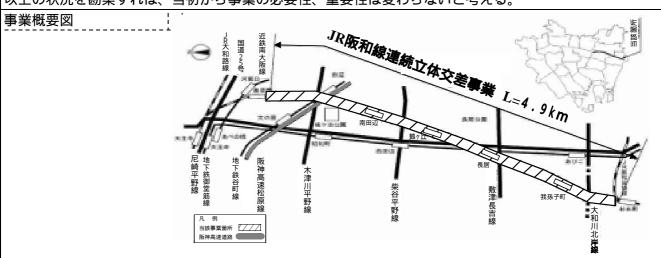
|施設の構造や工法の変更等|| 特になし

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考える。



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。